

2019年度 物流コスト実態調査 (2019年4月～2020年3月)

今回より物流コスト実態調査について、従来の加工食品主体3社合計の数値分析から各社の加工食品酒類倉庫毎の数値を集計し、カテゴリーごとの数値分析を行う様式に変更した。従って、前年数値とはデータ内容が異なるため前年比較は加工食品にて一部行うのみとした。

1. 加工食品

関東支部流通委員会参加8社のうち2社は酒類専門卸の為、データはなかった。倉庫数は42であった。

ケース単価は2,496円で前年より124円上昇している。対象企業が前年までの加工食品主体の3社から6社に増加しているため断定は難しいが、単価の上昇傾向は引き続いている。物流コストは配送費こそ微減となったがその他の項目が大幅増となりケースあたり14.8円増の122.6円となり、売上比も前年の4.55%から0.36ポイント増の4.91%となった。

項目別ではデータ処理費6.6円(+1.8円)、設備費23.6円(+6.0円)、流通加工費48.1円(+8.3円)、配送費44.4円(-1.2円)でありデータ処理費・設備費・流通加工費は大幅増、配送費は微減となった。

2. 酒類

酒類についても、加工食品専門の2社はデータがなかった。倉庫数は44であった。

ケース単価は3,772円で加工食品に比較して高額となっている。物流コストは177.1円とこれも加工食品に比べて高くなっているが売上比では4.69%と加工食品よりも低い値となっている。

項目別ではデータ処理費7.6円、設備費24.5円は加工食品とそれほどの開きは少ないが、流通加工費65.2円、配送費79.8円と加工食品に比べ大幅に高くなっている。これは、酒類の商品の特性である重量物や瓶といった割れ物が多いことに起因しているものと考えられる。

3. 総評

加工食品については、企業数・D/C数が前年と異なるため単純比較はできないが、設備費・流通加工費は大幅に上がっている。

配送費については微減となった。酒類については本年度より集計を始めたため前年比較はできないがケース単価の大きな差異により率では加工食品を下回っているが、流通加工費・配送費の金額では加工食品を大幅に上回っている。

2020年に入りコロナ影響により社会生活や企業活動に大きな変化が起きている。食品流通を担う我々はその業務の継続性に期待がかかる以上、ライフラインを切らすことは許されない。今後はSDGsが謳われる中で卸だけのコストダウンではなく販売先・仕入先・業務委託先を巻き込んだサプライチェーン全体での持続可能性の構築が急務である。

加工食品	2018年度		2019年度	
	金額	率	金額	率
ケース単価	2,372		2,496	
データ処理費	4.8	0.20	6.6	0.26
設備費	17.6	0.74	23.6	0.95
流通加工費	39.8	1.68	48.1	1.93
配送費	45.6	1.92	44.4	1.78
合計	107.8	4.55	122.6	4.91

酒類	2019年度	
	金額	率
ケース単価	3,772	
データ処理費	7.6	0.20
設備費	24.5	0.65
流通加工費	65.2	1.73
配送費	79.8	2.12
合計	177.1	4.69